

浄

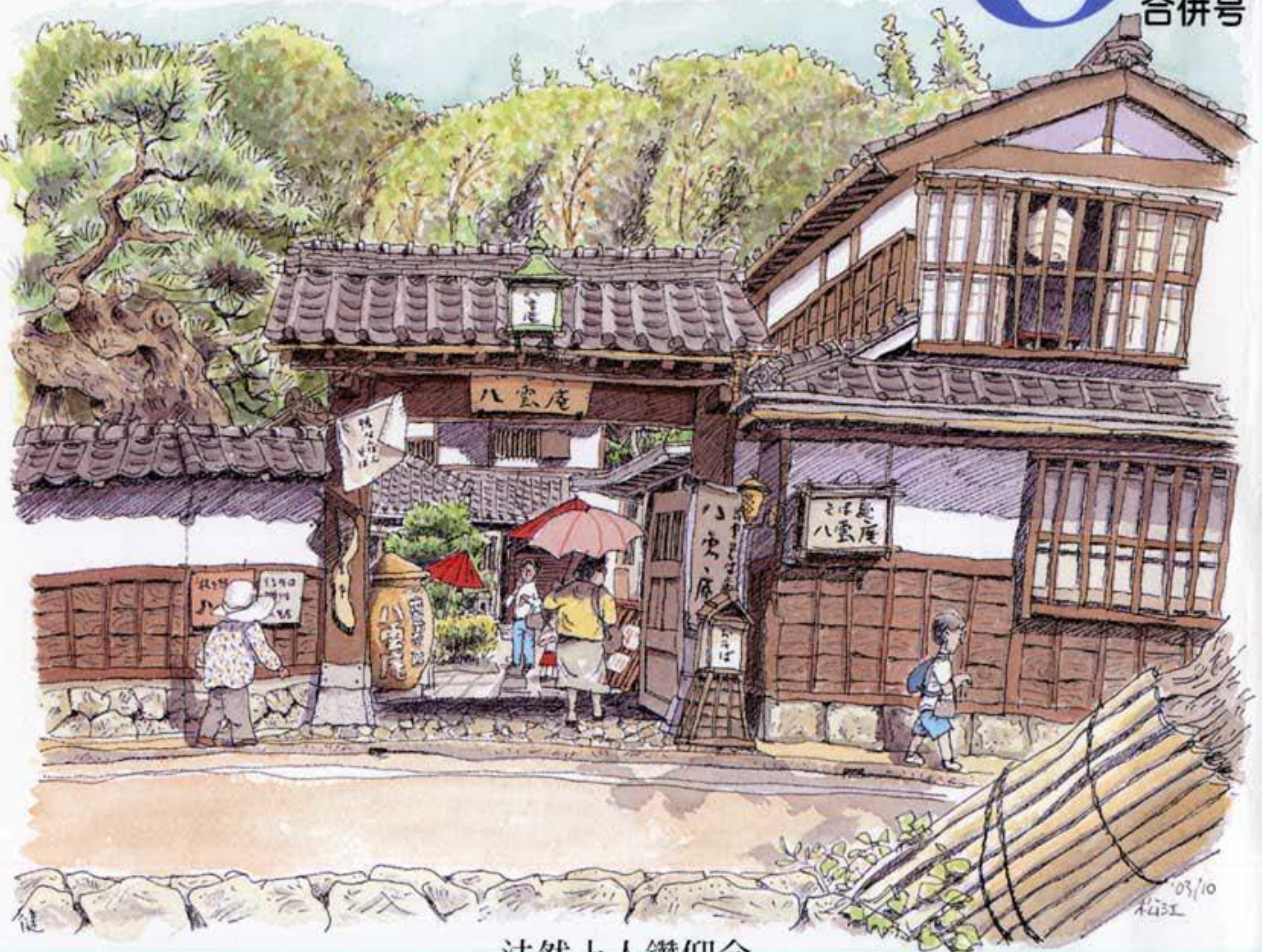
monthly
JŌDO

土

July-August 2005

78

合併号



法然上人鑽仰会



平成12年2・3月号



平成12年4月号



平成12年5月号



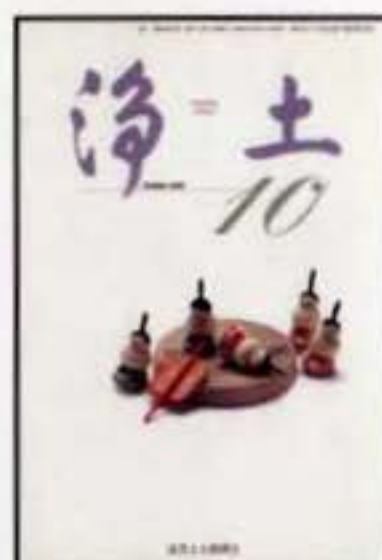
平成12年6月号



平成12年7・8月号



平成12年9月号



平成12年10月号



平成12年11月号



平成12年12月号



平成13年1月号



平成13年2・3月号



平成13年4月号



平成13年5月号



平成13年6月号



平成13年7・8月号



平成13年9月号

浄土

2005/7・8月号 目次

特集・海外の仏教

神の愛と仏の慈悲	後根定璽	2
お盆を迎えて	原 源照	8
連載 熊野古道に行く 第六回	森 清鑑	14
会いたい人 中村富士郎さん③	関 容子	20
響流十方	袖山榮輝	28
日本酒のことば 日本酒のじかん	藤原理加	32
シネマ随想	袖山榮眞	34
仏教コラム	大室了皓	37
表紙の言葉	村上 健	42
Jフォーラム		43
浄土誌上句会	選者＝増田河郎子	44
マンガ「さっちゃんはネッ」	かまちよしろう	47
編集後記		48



表紙題字＝浄土門主 中村康隆 祝下
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

特集海外の仏教

神の愛と 仏の慈悲

仏教大学ロサンゼルス校主幹

(哲学博士)

後根定璽

アメリカ合衆国は、ご存知のとおり、キリスト教（プロテスタント）を基盤として建国された多民族複合文化社会です。ヨーロッパをはじめ世界中から様々な人々が集まり、あたかもモザイクのような人種模様を呈していますが、その社会・政治・文化・価値観・人々の生活にはキリスト教の伝統がしっかりと根付いています。

「人民の、人民による、人民のための政府」と民主主義の枢要を唱えたリンカーン大統領は、就任の宣誓を神に誓い、子供たちは毎朝学校で神の国への忠誠を誓います。ある統計によれば、アメリカ全人口（約2億6千万人）の96%が神（他の一神教の神をも含む）の存在を信じており、そのうち98%が日常生活において実際に祈りを捧げているそうです。

カリフォルニアを中心とするアメリカ西海岸は、ラテン文化の影響を受けてか比較的にラックスした自由な風土がありますが、東部はヨーロッパ大陸に近いこともあって伝統を重んじる傾向があります。WASP（アングロサクソン系新教徒の白人）の多いバージニア州のウィリアム・アンド・メリー大学に留学中のある春の日、私は知人からお昼に誘われました。しゃれた白い家の裏庭の芝生の上で、手作りの美味しいサンドイッチとフルーツを一人ばくばく口に運んでいると、知人夫妻そして大学・中学に通う2人のお嬢さんがじっと私を見詰めています。不思議に思つて「どうして食べないのですか？」と尋ねると、奥様が「お腹いっぱい食べたいの、でも私達の宗教では飽食と肥満は罪になります」との言葉でした。

「質素儉約」「勤勉」「自立」はプロテスタントの特質です。したがってキャンパスにおける大学生の身なりもまた簡素なものです。Tシャツにジーンズとスニーカー、髪は簡単に後ろに束ね、時につま先が擦切れ穴の開いた革靴を履いている女子学生の姿も見かけま

した。ある金曜日の夜のこと、大学図書館の読書室で本を読んでいると、後ろからシクシク泣く女性の声が聞こえます。立ち上がって彼女の側に行き、なぜ泣いているのか訳を尋ねたところ「こんなに勉強しても良い成績が取れない、父親に叱られます」と赤く腫らした目を上げて応えました。厳しいご家庭のようです。何とも慰めようがないので、「頑張つて」と一言彼女に伝え席に戻りました。一年生と二年生は全寮制の大学でしたが、土曜日あるいは日曜日にキャンパスで遊んでいる学生の姿を見かけることはほとんどありませんでした。

特に、イギリスの伝統である、子供の躾けを重んじる文化を今なお残した環境に身を置いていると、幕末の日本に生まれ明治のあけぼのに活躍した、新島襄・内村鑑三・新渡戸稲造といった質実剛健を旨とする日本の若きサムライが、同じように禁欲的美徳を有するキリスト教に改宗したことも理解できるような気がします。

さて、こうしたキリスト教国アメリカに対して、仏教はどのようなアプローチができるのでしょうか？親日家であり、仏教大学ロス校研修でお世話いただいているペパーダイン大学のウェッブ名誉教授は、次のように語られています。

「歴史上に現れた偉大な人物が共有した特性は、他者に対する尊敬であり、慈悲であり、愛でした。彼等はまず他者を信じることを学び、つぎに他者を完全に彼らの心の内に迎え入れました。これとは逆に俗人である私達は、猜疑心が強く、臆病で、他人に対しては批判的で、むしろ他を遠ざける傾向にあります。個人攻撃もします。とき

に威嚇されれば戦いの引き金ともなり、他人を人間以下の生きものとして見ることさえあります。人を悪と見なす私達は、実に排他的と言うほかありません。

東洋と西洋の代表的な宗教（仏教とキリスト教）は、私達に真の人間性への目覚めを論じます。仏教徒には、他を自己と一体と見なす慈悲を通して覚者（ブッダ）の悟りへと向かう宗教的目標があります。キリスト教徒にとっての最大なる戒めは、全霊をもつて神を愛し他者を自己と同様に遇することです。

仏教では慈悲、キリスト教では愛をそれぞれ説きますが、比較すれば愛より慈悲の方がより容易に説明できます。なぜなら、東洋の哲学者は慈悲を育成していく具体的方策として道（みち）の理念を築き上げたからです。

一方のキリスト教徒は、如何に愛するかという実践面では彼ら自身で習得しなければなりません。イエス・キリストは「私の信奉者はすぐに分かるであろう、何故なら、彼らは愛に満ち溢れているからである」と語りました。事実、イエス・キリストの人生は愛の人生です。しかし愛を具現化する局面においては、キリスト教徒は単に彼の人生を手本にするほか術がありません。もちろんキリスト教徒は実践として神に祈りを捧げます。

しかしながら、自我にまったく執着しない慈悲を育てる方法、たとえば日本人が慣習的に行う坐禅・念仏・茶道・華道・書道等のような具体的な道（修行法）がキリスト教には示されていないのです。」

非常に示唆に富んだ内容です。ふつう日本人の私達が道を極めると聞けば、何やら辛く

厳しい修行風景をまず頭に思い浮かべますが、ウェッブ先生は、仏道をはじめとする日本の伝統的な道の探求に深い意義を見出し、道を歩むことは、人々が「慈悲」を具足するための最良の方法であると述べられています。

ここでの「愛」は「真実」とも置き換えられるでしょう。一方の「慈悲」は、相対的な我執・情感から離れた、生きとし生ける全てのものの苦しみを取り除き楽を与える救済的美徳です。キリスト教においては「信」が強調され、仏教では「信と行」の双修が説かれます。つまり過去・現在・未来にわたる経験や行為を指す「業（カルマ）」の概念がキリスト教の伝統にはないと云うことです。この業の思想は、インドに端を発した代表的な仏教思想の一つであります。

第二次世界大戦後、東洋の神秘性に魅かれたアメリカ人の多くが、故鈴木大拙博士による「禅」の紹介に触発されました。一九五〇年代後半から七〇年代にかけてアメリカではNEZブームが起り、あちこちの道場で瞑想クラスが開かれ、各大学の東洋学・インド哲学・仏教学・サンスクリットの教室では立ち席ができるほどの盛況を誇ったそうです。彼等は、西洋の伝統に無い瞑想（行）を通して心の安らぎを目指したのです。

近頃では、チベット僧のダライ・ラマ師の活動が目立った存在です。彼の講習会には、行く先々で何千もの聴衆が集まります。ロスにおける集会では、俳優のリチャード・ギアー氏、シャーロン・ストーン女史、そして他の著名人が先頭に立ってダライ・ラマ師を迎え入れています。師は「人と仲良くしましょう」「人に微笑みかけましょう」「我慢をしましょう」「精進しましょう」などごく当たり前のことを穏やかな口調と平易な言葉で聴衆に語りかけています。彼の講話の内容を要約するならば、たぶん「平和」「非暴力」「慈悲」

の三つの論点に絞られると思います。

もう四半世紀も前の話になるのでしょうか？ 親身になって私をご指導下さった元鎌倉大仏殿主の佐藤密雄先生から「我々の住むこの世は仮の世界で、真実の世界は浄土だよ。浄土はまた菩薩道を完成させる修行の場でもあるんだよ」と優しく諭されたことがあります。青年だった私にとって、それまでは目で見、耳で聞き、手で触れることのできるこの世こそが実の世界のように思われてなりませんでしたが、法然上人は「念仏して浄土に往生し、仏の慈悲は人知を遥かに越えた崇高なるものです。法然上人は「念仏して浄土に往生し、仏の智慧と慈悲を授かり、この娑婆世界に戻り、その慈悲をもって苦しむ人々を救済するように」と生涯をかけて教えられました。法然上人ご自身が、実際に勢至菩薩の化身としてこの世に現れ、迷える私達凡夫を救おうとされたのです。

慈悲とは、元来仏に具わるもので誠に不思議なものです。しかし東洋であろうと西洋であろうと、凡夫の称える念仏一声一声に慈悲の功德が具わっていることは揺るぎのない事実でありましょう。

〈結〉

（あとね じょうじ）

特集海外の仏教

お盆

を 迎えて

ラハイナ浄土院主任開教使

原 源 照

おぼんはもともと仏教の行事ですが、盆ダンスや灯籠流しは夏の風物詩として、いまやハワイのコミュニティ・イベントになった観がいたします。

お盆の法要にお参りし、盆踊りを見ておりますと、本当に心がなごみます。

仏教説話『盂蘭盆経』にもとづくこの行事は、しかし長い伝統の中にその説話をこえて、各地の風習、習俗を豊かにとり入れて、人々の心の中に深く根づいた地方色豊かな親しみ深い行事となつて参りました。

『盂蘭盆経』には、お釈迦様の高弟、目連尊者（さま）が、お釈迦さまの導きに従つて餓鬼道に墮（お）ちた母上を救われたエピソードが説かれておりますが、目連さまの母上を愛する深い慈愛から始まったこの行事は、今日広く世界各地の仏教徒が営む行事となっております。

おぼんに当たり私はつたない句を幾つか作ってみました。それらの句に因みましてお話を進めさせて頂きます。

“一世が伝えしお盆われ伝え”

はるばる移民の一世の人達が日本からこのハワイへやって来られた。そして故国の風習であるお盆をこの地でつとめ、一世が二世に、二世が三世に伝え、更に三世が四世へと伝えていく。

“一世が伝えしお盆われ伝え”

この我は、私でもあります。同時に各お寺にどうメンバーの方々一人一人が素晴らしいお盆の情感、こゝろに共鳴されて次の世代、縁ある人々へと伝えていくものだと思ひます。

また私共のお寺では灯笼流しを行なっておりますが、お盆の伝説ではお盆の初日に家の軒先でみたまを迎える「迎え火」をたき、お盆の終わりには、みたまを送る「送り火」をたきます。この送り火に当るものが精霊送りの灯笼流しであります。

“流灯にありし面影しのぶ盆”

流灯——流れゆく灯笼ですね。お浄土に向って流れてゆくという灯笼、その波間にゆれ動く灯笼のあかりに私共はいとしい人、なつかしい人のありし日の面影を偲び、頂戴した深いご恩に感謝するのであります。

“流灯にありし面影しのぶ盆”

さて盆唄（ぼんうた）に、

“盆は嬉しや別れた人も晴れてこの世に会いに来る”



と唄われておりますが、まさにお盆はお念仏の裡（うち）に、い
としい魂、なき人々との出会いの時であり、その出会いを信じ、わ
が人生の歩みを省みる時でもあります。

それはまた亡きみ魂だけではない、——お盆に参りますと、なつ
かしいあの顔、この顔に出会います。時には遠くから来られた人、
何年も会わず里帰りした人たちと会うことがあります。お盆はまさ
に出会いを喜ばせて頂く時であります。

またお盆にはお寺にお参りし、オファリング（献香・献花）をす
る、ドネーション（寄付）をする、捧げ物をする時でもあります。

また忙しいお盆行事のお手伝いをする。奉仕させて頂く。奉仕の
喜びを多くの人々と共に味わう時でもあります。

そして、あの太鼓の響きに乗って華やかに踊られる盆ダンス、踊
る人も喜び、みる人も楽しむ、心はずみ、心和（なご）むものです。

この盆踊りの起りは、母上が救われた喜びを目連さまが嬉しくて
嬉しくてたまらず、手の舞い足の踏むところを知らず、まさに躍り
上がらんばかりに喜ばれたという——救われた喜び、苦しみから解
き放たれた喜びのすがた——それが盆ダンスの起りだといえます。
また同時にそれはいい人、なつかしい人に捧げられる供養の



踊りだとされております。

日本の地方へ参りますと福島なら福島の踊り一色、沖縄なら沖縄の踊り一色ですが、ハワイは全国各地から移民の方がやって来ております。それでハワイに居りますと、居ながらにして北は北海道から南は沖縄まで日本全国の盆踊りがみられます。ハワイは非常にユニークなめぐまれた土地だということが出来ます。

盆踊りにみとれつつ、

“生かさる、喜び踊るいのちかな”

という一句が出て参りました。

いま生かされてあるこのいのち、その生かされてあることの不思議を、大いなる恩寵、如来様のお慈悲と感謝し、喜ばせて頂く。喜びあふれたいのちの躍動、それが盆ダンスかなと思うのです。



“生かさる、喜び踊るいのちかな”

八月に入りますと第一週の週末はラハイナ本願寺で、第二週はワイルク本願寺で、第三週はカフルイの浄土ミツションで、二十二日、二十三日の両晩がカラフルな沖縄踊りで知られるパイア臨済宗の盆踊りと続きます。

皆さま、どうぞお盆の法会（ほうえ）にお詣りさせて頂き、香を捧げ、祈りを捧げ、御法話を聴聞させて頂き、盆ダンスに心を和ませ、この人生を心豊かな人生にして参りたいものであります。

古き伝統技

三代にわたる信頼

浄土宗法衣専門

有限
会社

古島法衣店

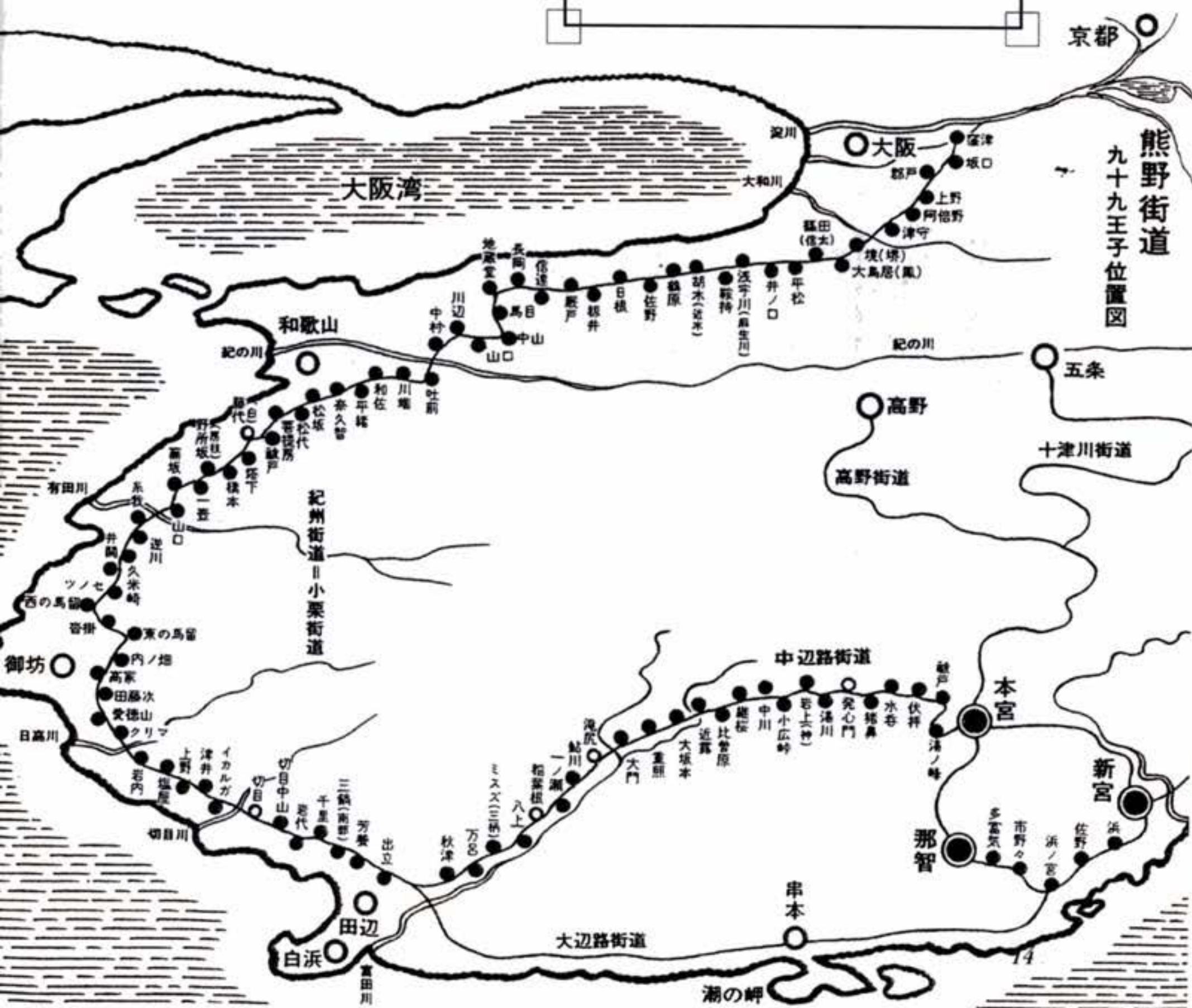
〒114東京都台東区元浅草4の2の1

電話(03)3842-1289

振替00180-245231

第六回

森清鑑



熊野本宮から 熊野速玉大社へ

熊野本宮の参詣を済ませた一行は、川船にくまのはやたまたいしや乗り熊野速玉大社へと向かう。早朝に出立すれば昼には速玉大社近くの河州かわすに着いたといわれる。そのため熊野川は水の街道とも形容されている。現在、上流にダムができ往時と比べ水量は少なくなっているとは云え、そのとうとうたる美しい流れは雄大である。河が新宮に近づくと大きな山（千穂ヶ峰の先端）がふさぐように立ちはだかり、流れを九十度蛇行させる。この地形が砂を堆積させ、やがて州すを形成し、その地盤の上に古都新宮ができた。新宮の語源は、「近くにある神倉山かみくらやまにおわした熊野三所権現が今から約二千年前に現在の速玉大社の鎮座地にお遷りになった。これより神倉神社かみくらじんじやの旧宮に対して新宮と称した」とある。

熊野速玉大社

熊野速玉大社は言うまでもなく熊野三山のひとつで、熊野速玉大神（「イザナギノミコト」、熊野夫須美大神（「イザナミノミコト」）を主神に、十二柱の神々を祭っている。これらの神々は神代の頃に神倉山に降臨せられ、景行天皇五十八年（一二九）に、現在地に社殿を築営し、移られたといわれる。そして奈良朝末期には、すでに「熊野速玉大神が衆生の苦しみ、病気を癒す薬師如来として過去世の救済を、またお妃の熊野夫須美大神は現世利益を授ける千手観音菩薩、家津美御子大神は来世浄土へ導く阿弥陀如来」として位置づけられている。

速玉大社に参詣して瞳目させられるのが社殿中央参道の左側に聳え立つナギの巨木である。幹回り六メートル、高さは二十メートルを越える。ナギの木としては日本最大級で国の天然記念物でもある。これは平重盛手植えの木と伝承されているが、樹齢八百年以上の

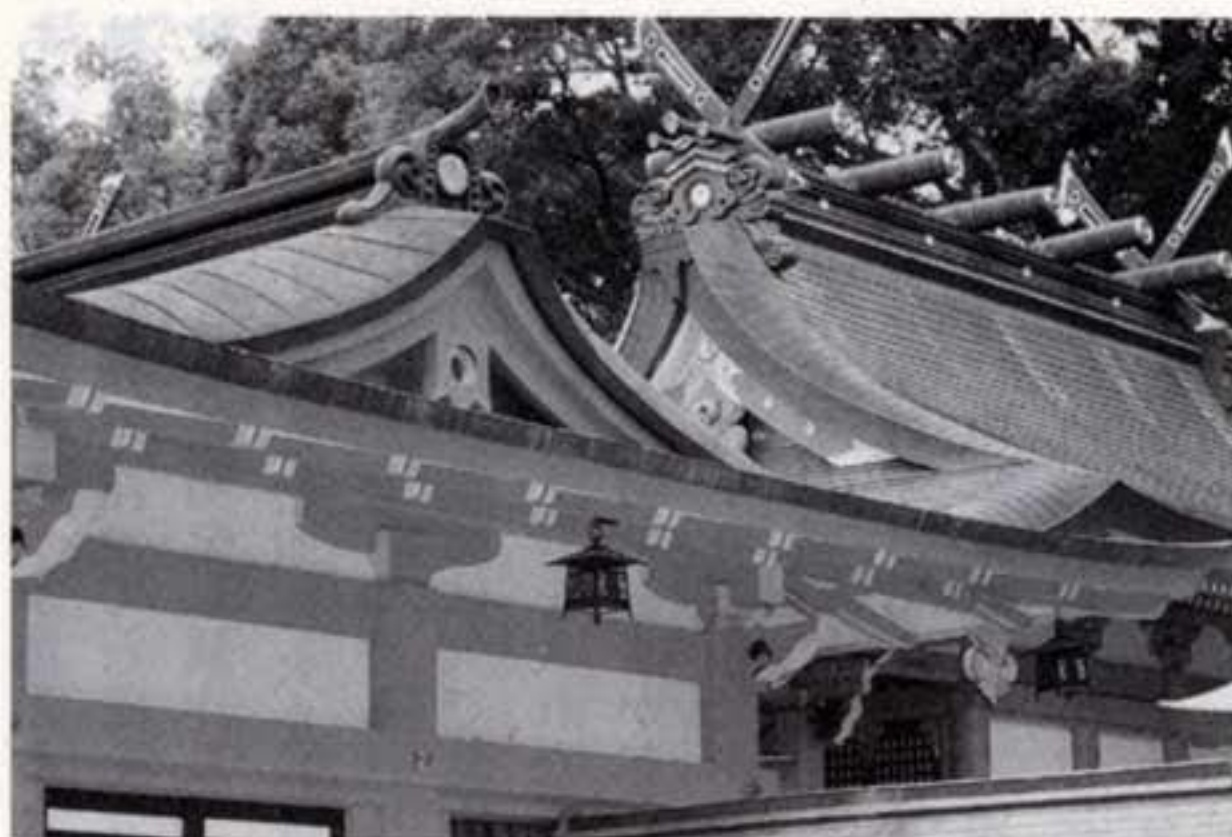
ようだ。ナギは縄文杉と同様に驚異的な生命力を持っており、その樹皮から微粉末を振りまき、他の木の苗を寄せ付けない。ゆえに一本のナギが立つ周囲には他の木が生えないという言わば、孤高の木であり、古来人々は神木として崇拜してきた。本来、ナギの葉がいわゆる榊である。

神々のおわす神倉山

速玉大社から新宮市内を抜け、権現山に向かつて二十分ほど歩くとその東南端の中腹に神倉山がある。昔、詣での人々も同じようにここにお参りしたことだろう。驚くのはまずその急峻な石段である。鳥居をくぐると右上に曲がりくねってせり上がっている。その石積は自然石を組み合わせた「鎌倉積み」といわれているが磨り減っており、いかにも歴史を感じさせる。現在の石段は、源平合戦における熊野の功労を賞して、建久四年（一一九三）に源頼朝が寄進したものと伝えられてい

る。石段の左側は切り立つ崖になっており、柵も何もない。五百三十八段。ようやく上り詰めると高さ百メートル近い断崖絶壁の上に巨岩が鎮座ましましており、その下に神倉神社がある。太い注連縄がぐるりと巻かれているこの巨岩こそゴトビキ岩である。ゴトビキとはヒキガエルを意味するというが、こここそ神が鎮座する磐座なのである。古来、権現山は神々が降臨する神体山として崇められてきた、いわば神域である。その神々が新宮たる速玉大社に移ったのである。眼下には新宮の町並みと対照的な速玉大社のこんもりとした森、そしてその後方に熊野灘が一望できる。昔は神秘的な美を漂わせていた光景と推察できる。辺り一帯は縄文時代人の生活が営まれており、明らかに縄文信仰が存在していたと見られる。

その証ともいえる祭事が年一度二月六日の夜に行われる、勇壮な「お燈祭」である。これは火祭りである。白装束の若者が松明を持



◆熊野速玉大社

◆ゴトビキ岩（神倉山）



◆鎌倉積の石段（神倉山）

ち新宮から出発する。夕闇迫ると速玉神社の神官たちが行列を作って石段を登り、神倉神社の前で大きな松明を二個作る。そこから若者たちは手にした松明に火をわけてもらう。胴には太い荒縄が巻きつけられている。ゴトビキ岩の前の狭い空間は火で埋め尽され、押し合い圧し合いの気合を入れた小競り合いが始まる。そして松明を振りかざし、急勾配の石段を一気に駆け下りるのである。先頭走者は松明の火程度では暗くて足元も良くは見えない。石段を駆け下りるというよりは飛ぶがごとくである。中には前の人の頭を飛び越すものもいるという。石段の外は崖でその下には大きな自然石がごろごろとある。転がる者、時には石段から崖を落ちる者もいるそうだと。怪我人が絶えないのもうなずける。よくも死人が出ないものだと思う。諏訪大社の御柱祭りと同じく手荒い祭りなのだ。優勝者のタイムは約二分。行ってみれば分かるがこれはもう

驚異的な数字である。かくて松明の火は、石段を火の滝のように埋め尽くし、流れ落ちる。そして火祭りは再び大社に戻って終わるのである。

縄文時代もっとも崇拜された神は「火の神」で農業国家になるにつれ、太陽の神「アマテラス」が最高神となった。したがって火祭りは縄文文化を色濃く残している。そういえばゴトビキ岩に並ぶ神の巨岩が熊野にはある。「花の窟」（有馬町在）と呼ばれる高さ七十メートルもの崖の巨岩でイザナミノミコトの墓と伝承されている。イザナミノミコトは火の神カグツチを産む際に陰部を焼かれて死んだという。この伝承も縄文から弥生時代への神崇拜の変遷とも考えられる。また、火の神カグツチは製鉄の神であり、火祭りは、イザナミノミコトの鎮魂祭事として誕生したとも想像される。ともかくこうした逸話は、熊野が神のおわす神聖域として古代から畏敬を集めてきた証左でもある。熊野の語源は諸説ある。

「クマ」とは、神を意味し神の里とする説、「こもる」の意で「樹木が鬱蒼と隠りなす所」また「神が隠る所」、アイヌ語の「クル」暗い所に居る神様、「隅（くまゝすみ）」の意で「辺境の地」……などである。

徐福伝説

古道は神倉山から新宮速玉大社に戻り、丹鶴城の城壁を見て蓬萊山に出る。城の近くに江戸時代の遊郭の跡がある。いわば大社のすぐ傍にあったというのがおもしろい。丹鶴城は歴代水野氏が治めており、幕末の水野土佐守忠央は名高い。彼は井伊直弼を擁立した人物であり、博学多才にして洋式軍隊を編成した人物である。蓬萊山は熊野川の河口にあり、徐福が中国から目指したのはこの蓬萊山ではないかとの説がある。徐福。秦の始皇帝から不老不死の霊薬探しを命令され、船団を組んで熊野蓬萊山に向かったとある。荒唐無稽な話だが熊野の人々の徐福に寄せる思いは熱

い。徐福公園に立ち寄る。中国風の彩り鮮やかな新しい門構え。ひとりの老人がやってきてこの大門の瓦は台湾で焼かれたものだと言ってくれた。台湾からの寄付もあったらしい。老人は誇らしげに徐福について語り始めた。紙、薬草、その他諸々の技術をもたらしにくれたのは徐福であると熱く語る。右側に記念館があり、そうしたゆかりのものを売っている。奥に天然石でできた徐福の墓がある。これは紀州藩初代の徳川頼宣が建てたもの。しかし、徐福なる人物の実在は疑わしい。おそらくは中国、朝鮮などから海を越えてやってきた渡来人の総称ではあるまいか。そして彼らは新しい技術や文化をもたらしにくれたものと想像される。だが、この伝説もいかにも古道沿いの文化発する処の話として興味深い。

（つづく）

連載

会いたい人 関 容子



撮影／タカオカ邦彦

富士郎さんにとって、芸の上にも役者人生のためにも貴重な体験となったのが、アズマカブキへの参加だった。

「母には、海外の超一流の劇場で踊りたい、という夢がありました、そんなときにアメリカで大興行師のヒューロックさんとお近づきになったわけです。この方は戦後いち早く歌舞伎を呼びたくて、当時の大谷松竹会長と話し合ったのですが、費用が莫大でまとまらなかったんですよ。そこで母には、三十人編成の一行に週給が三千ドル、飛行機代もホテル代も持たない、というきびしい条件を出したんですが、母は踊りたい一心で、承諾のサインをしてしまいました。結局溜池の家を手離してみんなの旅費にあてて、それで自らの夢を叶えたということですね。母にはそういう一途な情熱がありましたから」

第一次アズマカブキは、昭和二十五年二月から三か月間。富士郎さんが参加したのは第二次の昭和三十年から九か月間という長期に

わたるものだった。

「正式にはザ・アズマカブキ・ダンサーズ・アンド・ミュージシャンズというんですが、ヒューロックさんは『歌舞伎』にこだわって、阿国おくに歌舞伎の向うを張ってアズマカブキの字を大きくしたそうです。中身は歌舞伎の古典舞踊を、四、五分から長くても十数分に構成して、メドレーで踊ったんですが、主役は総て母で、私は『三番叟』『連獅子』『土蜘蛛』『お祭』など、それに母と『二人にんわんきやう腕久』を踊りました」

訪問先は、イタリア、フランス、イギリスなどヨーロッパが十一か国、アメリカが四十数か所に及んだ。

「ヒューロックさんのお口ききで、たとえばロンドンではコベント・ガーデンのロイヤル・オペラハウスとか、超一流の劇場に出演できたことが、その後の舞台に対する私の心構えなどに、非常に勉強になりました」

公演は戦時中の対日感情の違いで、入りの

会いたい人



息子さんの大ちゃんと歌舞伎座で節分の豆まき。

富田城 3

いい悪いはあったものの、舞台はおおむね好評だった。

これは外国人向けにうまいアレンジをした、舞踊家の藤間万三哉まさやの働きによるものだった。

「ええ、母より十歳年下で、大恋愛して二度目の旦那さんになった人です。アズマカブキの構成から振付から演出から、総て万三哉兄さんがしましたからね。あの才能がなかったら、母の情熱だけではとても成功は覚束なかったんじゃないでしょうか。万三哉兄さんは六代目（菊五郎）さんが昭和五年に創立なさった俳優学校で学んだ人ですから、六代目さんの功績はここまで及んでいるわけですね。しかし万三哉兄さんの手柄があまり顕彰されてないということは残念です。しかも帰国後は母とは別に住んで、ガスもれ事故で四十二歳で亡くなりました。気の毒な人でしたね」

一方、富士郎さんの実父である四代目富士郎は、昭和三十五年に巡業先の山口県宇部市で亡くなった。このとき五十二歳だった。

「あれは十月のことで、私は松緑兄さんの『シラノ・ド・ベルジュラック』に、ガスコン青年隊の一員で出ていましたから巡業先にはすぐ行けなくて、やっと月末に京都の父の家でお線香を上げることができました。父は酒が好きで、夜遅くからじつくりと飲んでいる姿を昔よく見かけたものですが、結局その酒で体をこわしたんですね。今でもキングオブキングスとか当時流行った有名銘柄のウィスキーを見ると、ああ、父が好きだったな、と思うことがありますよ」

そして昭和三十九年、富士郎さんは坂東鶴之助から六代目市村竹之丞を襲名する。この襲名がかなりの物議をかもしことになった。

「松緑兄さんも羽左衛門（十七代目）兄さんも、なぜ父親の富士郎の名を継がないんだ、という御意見でした。しかし私の本心は父と

京都大徳寺立花大亀和高を囲んで。
子息の名前に大の字をもらった。



イタリア公演の折、ローマ法王と握手する
正恵夫人。中央は松竹永山会長。



再婚相手の芳子さまとの間に栄治郎という息子がおりましたから、こっちに富士郎の名を継がせたいのではないか、とまあ配慮をしたわけですね。竹之丞の襲名は大谷会長と母が相談して、江戸時代に五代で絶えていた名跡を復活させたい、ということを決ったんです

が、この襲名から何となく菊五郎劇団にいつらくなつて、フリーになりました。このころは思うような活躍もできなくて、言わば苦難の時代ですね」

この低迷期を脱するのは八年後の昭和四十七年、晴れて父の名を継ぐことがキツカケだ

った。

「芳子さまと弟の栄治郎が、私に富士郎を継いで欲しい、と申し出てくれたんです。それで私が五代目富士郎に、弟が初代亀鶴（今の亀鶴の父）ということになりました。襲名の狂言は初代富士郎にゆかりの『娘道成寺』と『逆櫓』の樋口でしたけど、樋口を先代勘三郎のおじさんに教えていただきました。おじさんには以前に『鞘当』の名古屋山三を習ったことがあるんですが、君ね、幕切れはこうやって、って、いきなり幕切れの話になって（笑）、びっくりしましたけど、でもそれで大阪の府民劇場賞に選ばれましたし、『逆櫓』でも芸術選奨文部大臣賞をいただきましたから、勘どころをおさえるおじさんの教え方がお上手だったわけですね」

富士郎さんはその先代勘三郎の奥さま（六代目菊五郎の長女）の強い要望で、少年時代の勘九郎（現勘三郎）に踊りを教えたことがあった。

「おばさまはきちんと正座して毎日稽古を見ていらつしやいましたよ。お月謝もちゃんとかださって（笑）。『供奴』は、六代目さんから松禄兄さん、それから私が教えを受けたものですから、六代目さんの孫の勘九郎君にこれを伝えないと……と足柏子の裏間から常間に入って行く呼吸を念入りに稽古しました。あの足柏子は微妙にテンポをずらして踏むところが何ともいえず面白いところですからね。そのあと『吉野山』の忠信もみっちり稽古しましたよ」

そして疎遠になっていた松禄との間も復活する。

「兄さんのほうから、会ってもいい、という言伝てがあつて、君が富士郎を継げばそれでいいんだよ、と言われたときは嬉しかったです。勘当が解けたようですね」

ここ二十年ほど、富士郎さんにとってはいこと続きだ。昭和六十一年度の芸術院賞、

平成六年に人間国宝、その二年後には芸術院会員に選ばれた。でも最も大きな慶事と言え
ば、やはり正恵さんとの結婚だろう。

「私は山あり谷ありの人生でしたからね
(笑)。もう生涯独身でいようと思って、ずつ
とホテル住いでした。すると母が言うんです
よ。お前、このままじゃ私は安心して死ねな
いよ、って。永山松竹会長からも身を固めな
きや信用に関わると言われますし、でも今さ
ら探すわけにもいかないし……と思ったとき
にあの人がいたわけです。しつかりしてるし、
落着いてるし、優しいし、この人なら間違
いがないと思いましたね」

正恵さんは、玉三郎と菅原謙次が二人で作
った俳優養成所の第一期生で、映画『天守物
語』にも出演している女優さん。富十郎さん
とは新橋演劇物の『鬼平犯科帳』のとき、同
じ舞台に立って知り合った。

「鬼平が平成六年の六月でしたね。結婚を
申し込んだのは翌年十二月の京都顔見世のと

きです。すぐに佐野にいらつしやるご両親の
ところへ当時の松竹茂木副社長が御一緒に
くれてお願いに上りました。家内とは三十三
も違うんですから御両親は私より年下(笑)。
最初は躊躇していらつしやいましたけど、結
局は信用して、納得してくださいました」

結婚は平成八年の一月。式は富十郎さんの
氏神様である赤坂日枝神社、披露パーティー
は東京會館。みんな心から祝福したが、ちょ
っとひやかしてみたくなる楽しいパーティ
ーだった。

「挙式してすぐの二月にイタリアへ、『俊寛』
と『釣女』を持って行きました。ナポリ、ロ
ーマ、ミラノ、ジェノバを巡演したんですが、
ローマではこの間亡くなったローマ法王様
にお目にかかることができて、家内も握手し
ていただく光栄に浴しました。

それでも、海外公演に出るたびに思うこと
ですが、よくまあ母があんな早い時期に家
で売って出かけたものだ、ということす。

度胸がいい人だったんですね。当時のプロペラの飛行機がどんなに揺れても平然として怖がりませんでしたから。その母も平成八年の四月に八十九歳で亡くなりました、大はまだ生まれてませんでしたから、とうとう大の顔を見せるという親孝行はできずじまいになりましたね」

この五月、NHK古典芸能鑑賞会で、富十郎さんは当り役の一つ『船弁慶』をつとめた。五歳になった大ちゃんが可愛らしい舟子ふなこの役で登場すると、客席に歓声が上り、人気を一人ですらってしまった。

「大の名前は、京都大徳寺の立花大亀だいき御老師の大的字を頂いたんです。懇意にしていただいてるので、名付親をお願いしましたら、坊主は戒名しかつけない、とおっしゃられて（笑）、勝手に一字、頂戴したわけです。幸い、芸ごとが好きでよかったと思っています」

この大ちゃんが十一月歌舞伎座の観見世たかのすけで、初代中村鷹之資を名乗ることになった。

平成十三年歌舞伎座『石橋いしきょう』の文珠菩薩で初舞台を踏んだのが昨日のことのようにも思えるが、今ではその大ちゃんも幼稚園の年長さん。

「鷹之資という名前は、うちの定紋が鷹の羽八ツ矢車なので、そこからつけた新しい名跡です。披露狂言は『鞍馬山』を題材にした新作で、鷹之資は牛若丸。私は鷹匠の役で、これは手許で育てた若鷹がやがては立派な大鷹になって、大空に羽ばたいてもらいたい。という願いをこめて、演じることになるだろうと思いますね」

大ちゃんは立廻りが大好きだそうで、名披露目の舞台でもきつとみごとな立廻りで客席を大いに沸かせることだろう。

「できる限りいい芸術に触れさせる機会を持たせ、いい先生方にもいろいろと教えを仰ぎ、その中で芸には御行儀と緊張を持って成長して行ってもらいたいと思っています」

（おわり）

もし我れ仏を得たらんに、国中の人天、宿命を識らず、
下、百千億那由他諸劫の事を知らざるに至らば、正覚を取らじ。

〔「無量寿経」上巻、第五宿命智通願〕

私（阿弥陀）が仏となる以上、私の国土に住む天人や人々が、自身の過去世を知る能力（宿命智通）を得られず、限らない過去世における出来事について知ることが、万が一にもできないようであるならば、その間、私は仏となるわけにはいかない。

盆に吠える

じつに不思議な出会いもあるものだ。

それは、私が副住職を勤める寺のお檀家さんでAさんというお宅で飼われている犬のことである。じつはその犬、奇妙な特技があつて、お経の声にあわせて「くーん、くーん」と鳴き声をあげる。しかし、それにもまして不思議なのは、この犬とAさん一家の出会いなのである。

Aさんのお宅へは、十数年来、毎月、ご先代さんの命日にお伺いすることになつてゐる。いわゆる月参りである。家族揃つてお経を唱え、みなでご供養申し上げる。じつに、願つてもない習慣を身につけられている。

ある年、Aさん宅を改築することになった。改築後、再びお伺いしてみると一匹の犬を飼ひ始めていた。茶色い毛並みのハンサムな中型犬である。

「あれ、犬を飼ひだしたんですね。お孫さん方に、せがまれたのですか」
 そうお聞きすると、ご主人。

「いや、じつは……」と申される。

「近所で犬がうろうろしているなと思つたら、うちの家の庭に入り込んできてね、もちろん飼う気もなかったし、何度も追い返したんだよ。だけど、いつ

の間にかまた戻ってきてね。さもそこが自分の居場所というような顔をして寝そべっていやがるんだ。どこから来たんだか、根負けだね。押しかけ女房じゃないけれど、押しかけ犬だよ」

この犬、はじめからAさん一家になついていたそうだ。私も初めこそ吠えられたが、ちょうど仏間に面した縁側の脇に犬小屋があるせいか、何度かお伺いするうちに吠えられなくなった。そればかりか、私とAさん一家がお経を読み出すと、自分もさも家族の一員であるかのように、お経にあわせて鳴き出すようになったのである。

ところでお釈迦さまは、お覺りを開かれる直前、はるか過去の世に記憶をさかのぼらせながら、「この世に生きとし生けるものたちはみな、かつて前の世では家族であり、恩人であり、友人であり、ご縁を結んでいた大切な人たちであつた」という感覚をいだいたそうである。

そうした懐かしい感覚が慈悲心の源となり、その慈悲心がまた覺りの境地へと向つていく原動力となつたのであろうが、過去世に記憶をさかのぼらせる能力「宿命智通」は、私たち凡夫には到底手の届かぬ神通力の一つである。

ところが阿弥陀さまは「極楽浄土に往生した者には宿命通を具えさせる」というお誓いを建て、すでに成就されているという。宿命通だけではない、六つあるという神通力すべてについても、そう誓われている。

もつとも「あの犬は宿命通を具えていて、極楽からの使者としてこの世に戻ってきて云々」と大袈裟に言うつもりはない。しかし、そうかといって、この出会いを「偶然の産物」と言っすますには正直、抵抗がある。せつかくの不思議な出会いである。あの犬には「Aさん一家に飼われたい、昔のように一緒にいたい」という何らかの願いが託されていたと、せめてながらも私は、そう思いたいのである。

昨年のお盆、Aさん宅のご供養を早々に切り上げ、お茶も飲まずに立ち去ろうとすると、久しぶりにあの犬に吠えられた。

「おやおや、早くけえっちゃいけないと言ってらあ」とご主人。

私もかつて前の世で、この犬と縁を結んでいたのだろうか。はてさて、今年のお盆はいかがであろう。

日本酒のことば

の日本酒

じかん

その九

「夏吟醸」

「雪冷え」

「発泡濁り酒」

ある日、いつもの居酒屋さんYのご主人Kさんから、夏吟醸フェアというタイトルのメールが届きました。「ことさら蒸し暑い東京の夏の宵をグラス一杯の爽やかな吟醸酒で凌ぎませんか？」と。それを見て、「夏吟醸」とは、なんと涼しげない響きの言葉だなと、日本酒好きとしては、いたく感心したのでした。イメージとしては、いわゆる雪冷え（5℃ぐらい）ぐらいにキリリと冷やした日本酒を、滴も涼しげな薄口のガラスのグラスでいただく。そこに、鰯の湯引きなどが添えてありましたら、もうそれだけで至福のひとつときになってしまいます。

冬に仕込まれ、一年という短い時間の、

しかも、春、夏、秋、冬…と、四季折々で味わいが繊細に変化することは、世界中の数あるお酒の中でも日本酒だけが持つ大きな特徴の一つかと思います。だから、味わうほうでも、四季折々で、いろいろな変化が楽しめる…。

ちなみに、この夏、私がとくに凝っているのは、発泡の濁り酒なのでした。なかでも、以前から好きな蔵の一つであった、山口県旭酒造株式会社の「瀬祭」の純米吟醸の発泡の濁り酒。この蔵は、造るお酒のほとんどが純米吟醸ということも特徴の一つだそうです。個人的には、どこか中国地方の山々を連想させる、ほんなりと丸みのある飲み口に感心してい



藤原理加

取材協力 萬屋おかげさん（東京都四ッ谷）

ます。それが発泡酒になると、軽快で爽やかな酸味も加わって、夏の宵の一口目には、もってこいなのです。ただし、あまりに飲みやすくて二合瓶ぐらいはあつという間に空いてしまうのが、難といえは難なのですが……。もちろん、そんな「瀬祭」の他にも、すてきな発泡の濁り酒は、他にもかなりの蔵で造られています。モロミがふつふつと発酵していく際に出てくる自然の二酸化炭素を上手に生かしたこれらのお酒は、いってみれば、日本酒のシャンパンというところでしょうか？ 一度、うっかり冷蔵庫から出して小一時間ほど放置していたら、ある発泡濁り酒の蓋が、突然、「ポン！」と勢

いよく飛び出して驚かされたことがあります。でも、それは「瓶の中で酵母が生きて活動し続けている」ということの証。秋田県は舞鶴酒造株式会社の女性杜氏、工藤華子さんの言葉をお借りしますと、「見えない微生物によって作り出される日本酒の奥深い世界」に改めて感動する一コマでもありました。

さて、そんな夏が過ぎましたら、いよいよ「ひやおろし」の季節到来です。爽やかな夏吟醸に酔いつつ、最良のお酒が今年はどんなふうになるのかの話題で大盛り上がり。それが、夏の呑み助達なのです。

マイ・ファザー

監督 エジディオ・エローニコ



銀座シネバトスほかにて全国ロードショー

©2005 DREAMWORKS LLC AND PARAMOUNT PICTURES CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED.

目をはじめとする表情の絶妙なるコントロールこそ、俳優の演技力の極致であるとすれば、トマス・クレッチマンは弱冠四十二歳にして、既に「名優」に伍することになる。

この映画のポスターやパンフレットに大写しされる、かれとチャールトン・ヘストンとの父子抱擁シーンの静止画像でも、その片鱗を窺うこともできようが、かれの抱きしめる「父」が「アウシエヴィッツの死の天使」であることを熟知している観客の想像力を見事な迄に誘導する繊細な表情の演技は、スクリーンで堪能されんことをお奨めするばかり。

「死の天使」とはイスラム・ユダヤ両教に信ぜられる存在で、死にゆく者を看守り、肉体と魂との分別を役割りとする。「父」はアウシエヴィッツビルケナウ強制収容所のプラットフォームに交代で立ち、陸続と送り込まれるユダヤ人たちを毒ガス室に通ずる右と囚人舎に向う左とに分別せるのみか、左に選ばれた圧倒的少数者のうち一五〇〇組の双生児を対象に、医学者・遺伝学者としての野望の赴くまま、ナチスの妄説「アーリア民族優越論」に基く生体実験を重ね、その九四％を死に至らしめた「死の天使」の名に恥じぬモンスターである。

刹那、刹那、微妙に変容する「子」の表情に魅入られつつ、ふと気付くと「見えない顔」つまり、この「顔」

の横に後頭部のみ映し出される「父」の「顔」に、渇きにも似た好奇心をそそられていたが、その渴望を満足させたのは、再会から旬日を経た或る日、「子」の婚約者が、北ドイツ・ブレーメン生れの碧眼金髪の女性であると聞かされた「父」の笑顔だった。ドイツ南東部バイエルン州生れの彼にとって、ドイツ中のドイツ、ブレーメンに対する憧憬が「アーリア民族優越論」を増幅させ、心底からの歓喜が殺気を帯びて噴出するのだが、それは筆者にとって「見覚えのある顔」、できることなら隠しおせたい「自分自身の顔」でもあった。

十一面観音の十番目の顔をぞんじだろうか？ 後頭部に位置し、当然光背に面しているので通常は拝するのと至難であるが、かの有名な琵琶湖々北、高月は「渡岸寺」の国宝尊像のばあい、意図的とも思われる無光背の好条件のもと、露堂々顕現される「見たら忘れられない」あの「暴悪大笑面」を、チャールトン・ヘストンが拝した可能性はゼロに近いから、かれの演技力そのものが、あの通りの表情を演出したのだろう。

白洲正子『十一面観音巡礼』から引用しよう。「暴悪大笑面は悪を笑って仏道に向わしめる方便ということだが、とてもそんな有がたいものとは思えない。この薄気味悪い笑いは、あきらかに悪魔の相であり、（中略）深く内面を見つめた仏師の観法の中から生れた。そこに儀軌の形

式にそいながら、儀軌にとられない個性的な仏像が出現した。」アウシエヴィッツは「ひとごと」ではないのだ！

ここで「史実」におけるヨゼフ・メンゲレを『子供たちは泣いたか・ナチズムと医学』（大月書店）等によって要約すれば、一九一一年三月バイエルン州ギュンツブルグに生れ、同州ミュンヘン大学で医学と人類学を修学後、ナチス親衛隊医師となる。ベルリンのカイザーヴィルヘルム人類学人類遺伝学研究所の助手として「講師論文」資料の調査研究のため四三年二月アウシエヴィッツに赴き、四五年一月二七日の赤軍による「解放」寸前の一七日、実験記録すべてと共に姿を消す。四九年九月密航ルート「ヴァチカン・ライン」経由でアルゼンチンに脱出。南米のさまざまな勢力や旧ナチスのネットワークの支援により七九年二月水泳中の事故死まで余命を全うする。驚くべきことに、五四年かれはスイスに旅行し五九年には父の葬儀の為に一時帰国、以後ブラジルに潜伏していた、とされる。

以上の「史実」に照らして「子」の足跡を辿るならば、一九四二年出生、「父は亡きもの」として育てられるが、十五歳の誕生日に当り威儀を正した母と伯母から、三年前スイスでスキーを教えてくれた「南米の叔父さん」が実は父親であり、時折配達される国外便も父からの密書

であることを告知される。この頃の教室における激しいいじめのシーンから、十九年を経た青年が一九七六年五月二十九日ビルケナウと字幕に紹介される、この映画のファースト・シーンに登場し、例の引込線の枕木を踏みしめ、ブロック16a（かつての「メンゲルの子供たちの部屋」に残される稚拙な壁画を凝視する。そして「ついに前に逢える」との父の声に導かれて、偽名と秘密ルートにより七十七年一月、ブラジル、マナウス、アルゲン通りの路上で、あの再会シーンが演じられる。「父」の首には膨大な賞金が懸けられており、西ドイツでは既に死刑が廃止されている以上、自首こそ最も賢明な方策なのだが、一片の罪の意識もなく、アマゾン大原生林の植物間に陽光争奪の為に続行するサイレント・ウォーをモデルに、人種間における淘汰を力説してやまぬ「父」に絶望……空しく帰国する。

実際は以上のストーリーはカットバックの画面として処理され、ファースト・シーンに続くのは一九八五年六月六日、マナウスと字幕表示される墓地の光景である。死後六年を経てヨゼフ・メンゲレの遺体が発掘される。このセンセーショナルな場面に登場するのがF・マレーイ・エイブラハム扮する弁護士ミンスキーである。ニューヨーク・ユダヤ人協会の依頼により、かれは二つの目的（被害者たる生存双生児治療のためにカルテを入手す

ること。ドイツ政府への賠償請求のために、加害者の死を確認すること）を果すために、「すべて」を明かすことを「子」に迫り、苦渋の告白がワンカット・ワンカット映像化されるのだ。

例によって蛇足。この作品の原題には「アルゲン通り五五五」の細字が付せられている。またキャストとして紹介される登場人物は「父、ヘルマン・M、ポール・ミンスキー、ローベルト・S、マグダレナ・ヴァイナート……」と続く。セカンド・ネームがM、Sと表示される二人の名は、実は中学校の出席簿の写しなのだ。激しいいじめに遭い、教師にさえ「存在しないように無視された」ヘルマンを庇ってくれたのはローベルト唯一人だった。友情の絆に導かれたローベルトは、ヘルマンを追ってブラジル入りする。偶々ローベルトの宿で、高熱に冒されたヘルマンが讒言として呟くのが「アルゲン通り……」である。秘密の漏洩を察知したネットワークは、テロリストの濡れ衣を着せ、ローベルトを逮捕させる。Sを見殺しにして帰国するMの表情に「暴悪大笑面」を垣間見たのは幻視だったのだろうか？

二人のイギリス王子と、何人かの青山学院高等部の先生がたの、アウシェビッツと沖縄への修学旅行が、彼らの内なる「暴悪大笑面」発見の端緒とならんことを冀う。

（長野・十念寺住職）

諸行無常と聞くと、心が沈みがちになる。平家物語の「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす。おごれる人も久しからず、唯春の夜の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵に同じ・・・」という有名な序文の言葉に、諸行無常と聞くと「明日には不幸がやってくる」と思い込んで心が沈んでしまうのではなからうか。

しかし無常とは移り変わっていくということだから、今の不幸もやがては消えていくことを説いているのである。

私は苦しい事にぶつかると、諸行無常と呟いて落ち込む心を奮いたたせている。

この言葉は私にとっては希望を与える言葉である。

フランスの著名な精神医学者であったエミール・クレーエ（1926年没）の言葉が当時の欧米においてセンセーションを起こし治病の呪文にもなったという。

その言葉とは

Everything in every way, I am getting better and better.

（あらゆる事が、あらゆる方法でドンドンよくなる）——旬刊誌「国税解説」より

諸行無常の教えの欧米版ともいえようか。「明日は良い日だ」と信じて困難に打ち勝って生きたい。

浄土門主
総本山知恩院門跡第八十六世

中村康隆

大本山増上寺
法主

成田有恒

大本山 百萬遍

知恩寺

〒606・825 京都市左京区田中門前町一〇三

大本山清浄華院
法主

大田秀三

大本山善導寺
法主

阿川文正

大本山光明寺
法主

宮林昭彦

浄土宗宗務総長

水谷幸正

大本山増上寺執事長

江口定信

〒105・0011 港区芝公園四・七・三五

法然上人御誕生地

美作 誕生寺

〒709・3602 岡山県久米郡南町里方八〇八
TEL 〇八六七 (二八) 二二〇二
FAX 〇八六七 (二八) 二二六二

〒154・0017 世田谷区世田谷四・七・九

大吉寺

住職 成田昌憲

長野教区
十念寺住職

袖山 榮真

〒380-0845 長野市西後町一五六八

清水湊 貝付毘沙門天

忠高山 實相寺

〒420-0839 静岡市葵区鷹匠
二丁目二四番十八号

玉桂山 華陽院

電話〇五四 (二五二) 三六七三
FAX〇五四 (二五二) 三六五六

(学)大乘淑徳学園理事長
淑徳大学学長

長谷川 匡俊

〒174-8645 東京都板橋区前野町五・五・二

学校法人 淑徳学園
淑徳学園中学校・高等学校

理事長
校長 大谷 壽雄

塩釜市
雲上寺

東海林 良雲

浄土宗大願寺住職
浄土宗議会議員

神谷 英敏

世継地蔵 上徳寺

塩竈 義弘
塩竈 義明

京都市下京区富小路通五条下ル
本塩竈町五五六番地

弘経寺住職

(財)浄土宗報恩明照会理事長

金田 進徳

〒302-0023 茨城県取手市白山二・九・二八

孤峰山 蓮馨寺 吞龍上人奉祀
宝池院

川越市 仏教会長・教海師

糸原 恒久

〒350-0066 川越市連雀町七・一
電話 〇四九 (二二二) 〇〇四三
FAX 〇四九 (二二六) 〇六七六

赤坂六地藏尊

浄谷土国寺

〒107-0052 東京都港区赤坂四・三・五
電話〇三(三三八三)三六三〇

明福寺

福井豊信

〒132-0013 江戸川区江戸川三・八・一

伊勢教区

山下法文

松阪市樹敬寺

愚鈍院 こつぶがや文庫主

中村眞道
中村瑞貴

〒984-0051 仙台市若林区新寺三・一二・一七
電話〇二二(二五六)六〇五七

宗源寺

齋藤价洲

〒110-0015 台東区東上野五・一・六

勝願寺

〒365-0038 埼玉県鴻巣市本町八・二・三一
電話〇四八(五四一)〇二二七

骨仏の寺

一心寺

〒543-0062 大阪市天王寺区逢阪二・八・六九
電話〇六(六七七二)〇四四四

貞松院住職

山田和雄

〒392-0004 諏訪市諏訪二・一六・二二
電話〇二六六(五二)一九七〇
FAX〇二六六(五二)三四四六

〒112-0002 東京都文京区
小石川三丁目十四番六号

無量山 傳通院

電話〇三(三八一四)三七〇一(代表)

定義如来

西方寺

〒989-3213 仙台市青葉区大倉字上一
電話〇一一(三九三)一一〇一一
HomePage: <http://www.johgior.jp/>
E-mail: saihoushi@johgior.jp

花巻 廣隆寺

谷地玄雅

九品阿彌陀如来

淨眞寺

〒158-0083 世田谷区奥沢七・四一・三
住職 清水英碩

願行寺住職

佐藤成順

〒140-0004 品川区南品川二・一一・一一

梅窓院
住職

中島真成

東京都港区南青山
2-26-38
電話 03 (3404) 8447
ホームページ
<http://www.baisouin.or.jp>

鎌倉大仏殿

高德院

〒248-0016 鎌倉市長谷四・一一・二八
電話 〇四六七 (二二二) 〇七〇三
FAX 〇四六七 (二二二) 五〇五一

天光院

真野龍海

<http://www.evam.ne.jp/tenkoin>
ryumano@venus.dtl.ne.jp

光円寺住職

佐藤良純

〒112-0002 文京区小石川四・一二・八

横浜

大光院

www.daikoin.com

光取寺

大室了皓

〒141-0021 品川区上大崎一・五・一〇
電話 〇三 (三三四一) 八三八四

2005

78

絵と文

村上健

蕎麦屋の思い出

私の好きな何の変哲もなく古びた商店のモチーフを探すには、ちょっとしたコツがあります。

スケッチに出かける前、おおよその目星は付けるのですが、いざ建物に直面すると描く気になれない事も。しばしばメディアに登場するのは、何やら自慢げで鼻白むこともありますし、歴史的建造物として保存されたものからは生活感が匂ってこない。

そんな時は、ご立派な建物周辺をしばしパトロール。すると実にいい物件に遭遇することがある。私はこれを「隣のレトロ」と呼んでいます。

今回のお蕎麦屋さんもそんな一つで、松江城のお堀沿い、近くには小泉八雲の旧居などもある一画で偶然出くわした店です。建物同様、出雲蕎麦の特徴である色黒の麺も、実に美味でありました。



FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では

読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウォッチング、紀行文、その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

●中

〈特選〉

汐干狩り目籠ひきずり中州まで

大西明子

浅蜷を掘る手を止めて背を伸ばす。見回すと、どうも中州のあたりがよく取れているようだ。というので、少し貝のたまった籠を引きずって移ってゆくのである。果たしてよく取れたかどうか。

〈佳作〉

父と子の背中見せ合つ菖蒲の湯

大場 清

就中若葉の中の柿若葉

和田 仁

藤の寺苑の中なる芭蕉句碑

松尾三重子

●尾

〈特選〉

初夏の光線のごと水尾交わす

東 保

この頃小さい舟でも速くなって、漁船でも水尾を長く引く。この句の舟はどのようなのか知らないが、行き交う水尾がきらきら光つ

●自由題

て見える。「光線のごと」がいかにも初夏と
いうにふさわしい。

〔佳作〕 鯉の尾のゆらりと返る木下閣

目黒 裕

昼寝から醒めてどんより尾の記憶

鷺宮 芳郎

遊船の水尾幾筋や五月晴れ

西井 正

〔特選〕 新緑やめくらむごときダムの斜度

ダムの擁壁のそそり立つ様子を、「めくら
むごとき・斜度」と表現する。これで読者は
黒部ダムそのほか、日本有数の高さを誇るダ
ムを頭に浮かべる。言葉の力である。回りの
新緑が鮮やかである。

内藤 隼人

〔佳作〕 蜘蛛の巣に風の始まる昼下がり

月島 篠

駄菓子屋のおまけにつけし紙幟

北川 弘子

夕支度田水の反射窓に受け

小林 恵美



編集部選

参加作品

中

五月晴部屋中開けて風入れる 中島一子
 中折帽父の仕草や濃山吹 周東澄江
 あともどりして連翹の花の中 河合富美枝
 うらうらと駒の綱曳く祭り中 佐藤雅子
 家中を開けはなち涼しき風通す 山本美代子
 ゴッホ展の中吊チラシ黄蝶殖ゆ 片桐てい女
 膝の中に眠るみどり児鮎料理 中島富士子
 生姜植え入院中を育ち待つ 金谷友江
 働かぬ蟻は道中昼寝して 堀管子
 緑濃き茂みの中に青い空 今井恵子

尾

富士山の裾野は長く尾をひいて 今井恵子
 燕の巢仲良し親子尾だけ見え 堀管子
 かつこう草の花を愛でつつ尾根歩む 金谷友江
 青芝に転ぶ子犬の尾を立てて 周東澄江
 高々と鯛の尾反らせ雛の宵 河合富美枝
 新緑や産毛のような尾根づたい 大場 清
 来て見れば澄みたる空よ初尾花 佐藤雅子
 立て簀を解けば守宮逃げゆく尾を振りて 山本美代子
 夏海に尾を跳ね打ちし鯨の死 片桐てい女
 鮎を焼く尾鰭に強く化粧塩 中島富士子

自由題

風光る新学童のランドセル 中島一子
 音立てて海老天揚がる寒の明け 河合富美枝
 あじさゝの話を終る法会かな 中島富士子
 春光の底辺にある分校舎 助田和江
 堂縁に洩れくる法話沙羅の花 蘭田郁子
 まだ雨とならざる湿り春の野に 池田伊吹
 軒ごとに古き屋号や初燕 中村真一

浄土誌上句会のお知らせ

題

①季語ではありません

剣号

自由題

締切・二〇〇五年八月二十日

発表・『浄土』二〇〇五年十月号

選者・増田河郎子（『南風』主宰）

応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各1名・佳作各3名

葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下さい。

宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
月刊『浄土』誌上句会係

さっちゃんはおね

22 かい目

かまち♡ふらう



編集後記

川底の水の音色や夏の暮 岱潤

先日人権の研修会で「東京食肉市場——芝浦と場」を訪問した。前日に働いている現場の方からお話を聞き、と場の歴史や現在も続いている差別の実体などをお聞きした。そして翌日の現場見学に先だって「合掌はしないほしい。出来るだけ動物をみるのではなく作業をしている職員を見てほしい」と、注意を受けた。翌日早朝から豚と、牛の解体作業場を白衣、ヘルメット、長靴に身を包み見学した。見学コースはなく、血や肉片が否応もなく飛んできた。芝浦では一日で豚は千頭前後、牛は三百五十頭が解体される。一頭に費やす時間は豚が三十分、牛で九十分ということ、実に手際よく、

流れ作業で行なわれていた。職員達の技術のみごときは圧巻で、まさに職人という感を強くした。場内には常に刃物を研ぐ音と、消毒のための熱湯の蒸気の音が響いていた。

「動物は殺して血抜きをしなければ食物にならない。皆さんが肉を食べ、革製品を使いながら、作業をしている我々を残酷だと思わないでほしい。仏教の不殺生戒はどれだけ我々を苦しめているか計り知れない」というお話に、私自身苦悩した。おざなりの解釈を振り回すことによつて、どれだけ苦しむ人がいるかを、我々は想像する力がなければならぬことを強く実感した。

(長)

雑誌「浄土」

特別会員、維持会員の方々

今月より賛助会員の方々も
記させていただきます

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
巖谷勝正(目黒・祐天寺)
江口定信(浦安・大蓮寺)
大江田博導(仙台・西方寺)
大田秀三(大本山・清浄華院)
北山大超(焼津・光心寺)
熊谷靖彦(佐賀・本應寺)
桑原恒久(川越・蓮馨寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤成順(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光圓寺)
東海林良雲(塩釜・雲上寺)
須藤隆仙(函館・称名寺)
袖山榮真(長野・十念寺)
高口恭行(大阪・一心寺)
田中光成(町田・養運寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村康雅(清水・実相寺)
中村眞道(仙台・愚鈍院)
野上智徳(静岡・宝台院)
樋口隆信(石巻・西光寺)
藤田得三(鴻巣・勝願寺)
堀田卓爾(静岡・華陽院)
真野龍海(芝・天光院)
水科善隆(長野・寛慶寺)
宮林昭彦(大本山・光明寺)
宮林雄彦(横浜・大光院)
山田和雄(諏訪・貞松院)

(敬称略・五十音順)

ホームページ <http://gekkkan-jodo.info>

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤

斎藤晃道

佐山哲郎

青木照憲

村田洋一

編集顧問

大室了皓

浄土

七十一巻七・八月号 頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成十七年 七月二十日

発行 平成十七年 八月一日

発行人

真野龍海

編集人

佐藤良純

印刷所

株式会社 シーティーイー

〒一〇五・〇〇一一

東京都港区芝公園四・七・四 明照会館内

発行所

法然上人鑽仰会

電話 〇三(三三三七八)六九四七

FAX 〇三(三三三七八)七〇三六

振替 〇〇一八〇・八・八二八七

山本正明の
四季の和菓子

夏の茶趣

夏は涼しく



東哉「倣古染付 花鳥図平向付」

やまもと まさあき 「とゝや魚新」店長。昭和二十八年東京生まれ。京都「たん熊」ほかで修業の後、昭和五十六年東京赤坂の「とゝや魚新」開店とともに店長となる。“喰切おまかせ料理”を看板に、一客一亭のもてなしをめざす。



山本氏の野菜で創る「四季の菓子」に出会い、日本の文化はこの四季という季節を大切に生み出したことを、あらためて感じさせられました。一年間ありがとうございました。

- 梅雨が明けた七月、八月は日ごとに暑さが厳しくなる季節。
- 文明が発達して、室温を意のままに変えられる時代になりましたが、夏のもてなしは涼一味につき、利休居士の「夏は涼しく」の心得が第一。
- 山本氏のシリーズ野菜で創る「四季の菓子」の最終は、錦玉の美しい夏の菓子「岩清水」。
- ① 錦玉は、寒天、砂糖、水、水あめ、レモン汁を煮、人肌のゼラチンを合わせる。
 - ② 丸十（さつまいも）、空豆は別々に蜜煮し、丸十はくちなしで色をつける。大納言は一晩水につけ踊らないように煮てから水を空け、砂糖を加えて煮る。
 - ③ 型に②、①を順に入れ冷やす。

法然上人鑽仰会の

本



「念佛讀本」完全復刻版
1,600円



「差出人は法然さん」
600円



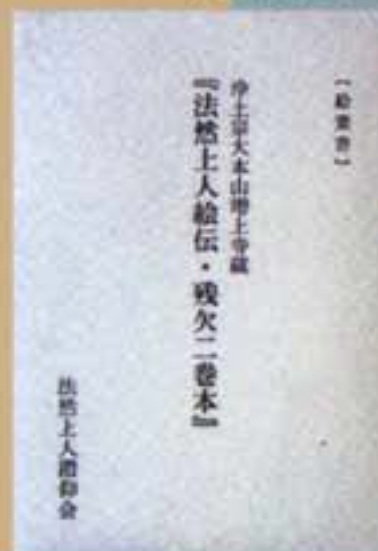
※額装寸法47×59cm



選擇集十六章之図(額入り)
「選擇集絵解き物語」含む
20,000円 (別途梱抱料300円)



「法然上人絵伝絵葉書」
(8枚セット)800円



委託販売

増補版「浄土への道
法然上人法語抄」
1,000円



「ブッダ
知れば知るほど」
1,000円



※浄土宗大本山増上寺蔵
「法然上人絵伝・残欠二巻本」より

当会発行の書籍、雑誌のお求めは、
当会へお申し込みください。なお、月
刊「浄土」を除き価格に送料は含まれ
ておりません。別途実費を申し受けます。

法然上人鑽仰会
電話 / 03-3578-6947
FAX / 03-3578-7036